

知的障害特殊学級における遊び活動を中心とした生活単元学習の実践的検討

岐阜大学教育学部障害児教育講座 坂本 裕
 岐阜大学教育学部附属小学校 杉山 章
 三重県菰野町立音羽小学校 藤井 妙子

はじめに

我が国では、1979（昭和54）年度からの養護学校の義務化に伴う児童生徒の重度・重複化に対応すべく、『昭和54年度版特殊教育諸学校学習指導要領解説—養護学校（精神薄弱教育）編一』（文部省、1983）において、はじめて「遊び」が「生活単元学習の指導」に関連して取り上げられた。さらに、『平成元年度版特殊教育諸学校小学部・中学部学習指導要領解説—養護学校（精神薄弱教育）編』（文部省、1992）では、「遊び」が領域・教科を合わせた指導の一形態として、「日常生活の指導」「生活単元学習の指導」「作業学習の指導」と並んで位置付けられた。このことについて、太田俊己（1994）は「意見や感想を述べ合え、参加する集団への意識もあり、作業・運動能力的にも自分から働いて動ける児童生徒を前提としたそれまでの生活単元学習や作業学習では、重度・重複化する児童生徒にはその実践が困難になったことへの対処であり、幼児期の幼稚園教育から範をとり、また教科教育の前段階への対応も配慮しつつ、領域・教科を合わせた指導の一形態として『遊び』の指導が成立し始めたものである」としている。また、宮崎直男（1987）によると、小学校特殊学級においても同様に、児童の重度・重複化に伴って、「遊び」活動が教育課程の中に遊びが取り入れられていった。

文部省（1993）はこうした誕生した「遊びの指導」に関して『遊びの指導の手引き』を発刊し、その中で「遊びは小学部の教育課程のなかの生活科に主として位置づけられているほか、他のいろいろな教科にも関連しているが、遊びの指導は、生活科という教科の指導の一部ではなく、また、その他の教科の場合にも、各教科

の内容を遊び化して指導するというのではない」とした。つまり、子どもたちが自発的に遊びを楽しむ中で、結果として、各領域、各教科の内容が様々な形で統合されて指導されることが望ましいとされたのである。このことについて、木下勝世（2000）は「遊びは生活単元や作業学習と同じく、特定の領域・教科の内容を指導するための方法ではなく、それらの全ての内容が分けられない形で包含されているものであり、総合的な体験として子どもたちに提供されるべきで、遊びの指導は『遊ぶために遊ぶ』という原則にのっとったものでなくてはならない」といった支援観を示している。また更に、「遊びで何かを指導しようなどとは考えず、主体的に自分の遊びとして取り組みたいという子ども自身の『思い』それ自体を教育の目的とする」といった教育観（名古屋恒彦、2001）や、「遊びの中でやりたい気持ちが達成され、その達成感や成就感がやる気と生き抜く力を生み出し、将来の働く力へ転換する」といった発達観（柚木 馥、2000）も示されている。

本稿では、これまで述べてきたような状況を踏まえ、小学校知的障害特殊学級の低学年学級を対象とし、遊び活動を中心とする生活単元学習の授業づくりとして、子どもたちがよりよく遊び、主体的に活動する授業とするためには、単元構成、遊具の配置、教師の支援などをどのようにすべきかについて検討を加えたい。

方法

1 対象校・学級

A小学校は、通常の学級を18学級（1～6年生まで各3学級）と、特殊学級3学級（低、中、高学年学級）をもつ、A市にあっては比較的規

模の大きな学校である。A小学校特殊学級（通称「養護学級」以下、養護学級と記述）は知的障害特殊学級であり、低・中・高学年の3学級から構成されている。本研究は、A小学校の養護学級の1つである養護1組を対象学級とした。養護1組は1年生3名（男子2人、女子1人）、2年生2名（男子2人）からなる学級で、1年生は学校生活の中で初めてのことを体験することによって、2年生は既知の体験を繰り返すことによって、学校を楽しみに登校する姿が見られるようになってきている。また、児童は自分が好きな活動を楽しみ、教師とのかかわりを求める中で、学級の仲間を気にかけて活動する姿も見られるようになってきている。2年生は昨年度から継続して遊びを中心に活動してきた経験もあり、1年生より率先して活動できたり、教師の働きかけに応えながら遊んだりする姿がみられる。

2 対象単元（授業）

本単元「新聞紙プールで遊ぼう」は子どもたちが大好きな遊戯室に新聞紙プールやその他の遊具を設定して、遊ぶ活動を中心に据えた生活単元学習を展開しようとするものである。また、自分たちで十分に遊んだ後で通常の学級や養護学級の他の仲間と一緒に遊ぶことで、その広がり期待するものである。

3 遊具

子どもたちの思う存分遊ぶ姿をイメージしながら、以下のような10種の遊具を設置した。

(1)新聞紙プール：子どもたちが新聞紙をびりびりと破いたものをひらひらと降らしたり、お風呂のように潜り込んだりする姿を願って考えた。遊具の配置を変える際に取り外しが可能であると便利なことや、安全に自由に出入りすることができることを考えて、ビニールシートを天井からゴムで吊るし、天井とゴムはマジックテープでくっつける。プールのサイズは210×210×30cmにする。また、中に入れる新聞紙片は、投げたり蹴り上げたりするとひらひらと落ちてくる感覚を楽しむことができる裁断機で切った四角い新聞紙片と、単元の終盤からはかたまりになったものを引き裂いたり頭の上に乗せて遊ぶことができる、シュレッダーで切った



写真1 新聞紙プール

細長いふわふわした新聞紙片の2種類をプールに入れる。

(2)高い滑り台：遊戯室にほぼ常設されており、自分から教師に組み立てるように促したりするなど2年生はもちろんのこと1年生にもなじみがあり、子どもたちの大好きな遊具であることから設置する。高い所が好きなJ男やK男が十分楽しめ、高い所が苦手なI男やM子、Y男も挑戦できるように高さは約130cmにし、幅は約45cmとする。また、なじみのある遊具であるこの滑り台が、同時に新しい感覚を味わえる遊具になるよう、本単元では滑り台の着地点を新聞紙プールの中に入れて配置し、滑り台を滑り終えるといつもの床ではなく、新聞紙プールの中に入ることができるようにする。

(3)低い滑り台：高い滑り台同様に遊戯室に常設されているものであり、子どもたちが一人で滑り下りたり、駆け上がったりのほか、幅が広いので仲間と一緒に滑ることも楽しむことができる。高い所が好きな子も苦手な子どもの子も楽しめる高さであるため子どもたちに人気があることから幅約90cm、高さ約75cmで設置した。高い滑り台と同様に、着地点を新聞紙プールの中に入れて、滑り落ちた時の新聞紙片の感触を楽しむようにする。

(4)Mちゃんハウス：ままごとの大好きなM子やY男の姿から、中でままごとを楽しんだり、遊び終わった後にみんなで中に集まりお茶を飲んだりすることができるようにする。特にM子は仲間や教師を飲み物などでもてなすことを楽

しみにしており、M子にとって必要な遊具と考えた。ダンボールで壁とドアを作り、中にままたの道具を置いた。また、ドアに透明の窓をつけて中や外の様子が見えるようにし、中で遊ぶ子どもと外で遊ぶことがお互いに関わりやすくなるように配慮する。広さは約180cm四方である。

(5)二本橋：単元開始以前から遊戯室にあり、バランスをとりながら渡ったり、ぶら下がったりして楽しむことができ、J男やK男が大好きであることから設置する。なかでもK男はこの二本橋を行ったりきたりしながら、仲間や教師の様子を眺め、自分が関わっていく場面を探すような姿が見られ、K男にとって特に必要な遊具と考えた。技巧台を組み立てて作る遊具で、J男やK男が高さを楽しめるように約100cmに調節した。一本の橋は長さ約240cm、幅約12cmである。

(6)マットの山：単元開始当初、向かい合った高い滑り台と低い滑り台の一方を滑り降り、その勢いでもう一方へ上ることを楽しむ姿が見られた。しかし、高い所が苦手なI男、M子、Y男にとっては少し抵抗があったようだった。そこで、ビールケースの上にマットをかぶせ、高低の滑り台を並べて設置し、その向かい側に幅100cm、高さ80cmの山を作った。そして、高い所が苦手な子も好きな子も、高い滑り台とマットの山を行ったりきたりするか、低い滑り台とマットの山を行ったり来たりするかを自分で選んで楽しむ姿をイメージした。また、幅が広く、木でできた滑り台よりやわらかいので、仲間と一緒に滑ったり、寝転がって滑ったりすることを楽しむ姿を願った。

(7)平均台：単元開始以前から遊戯室にある遊具で、一人で渡ったり、教師の手をとって渡ったり、またいだけして楽しむことのできるなじみのある遊具であることから設置した。長さ約250cm、幅12cm、高さ約35cmの平均台を平行に2台つなげた。

(8)膨らむ怪獣：新聞紙片を送風機で飛ばして遊んだことがあり、その送風機を使ってビニール袋を膨らませることを考え、子どもたちが新聞紙プールで怪獣に見立てて蹴ったり叩いたり、



写真2 膨らむ怪獣

新聞紙片をかけたり、更に上に乗ったりして楽しむことができるように、単元終盤から登場させる。ビニール袋をつなげて約230×65cmにし、また、ウルトラマンに変身するのが大好きなY男がビニール袋を怪獣に見立ててやっつけて遊ぶことができるように、ビニール袋にバルタン星人の絵を描き、ウルトラマンのテーマソングとともに膨らませることにする。さらにバルタン星人をやっつけたことが分かるようにビニール袋にはあらかじめ穴をあけておき、時間をかけてしぼむようにしておく。

(9)トンネル：子どもたちがダンボールに入ってそれを電車に見立てて引っ張ってもらって遊んだり、ダンボールの中に隠れて遊んだりする姿から作った。ダンボールを使って作り、約50×40cmの大きさで、長さはつないだり、離したりして調節できるようにし、子どもたちの様子を見ながら配置や形を変えていく。

(10)ビールケース：滑り台へ上るときの踏み台にしたり、上に乗っていつもより高いところから眺めたりできるように作った。ビールケースをビニール紐でつなげた。約150cm四方の広さで、高さは約40cmとする。

4 検討方法

対象単元の展開の仕方、遊具とその配置、教師の支援などについて、実際の子どもの様子を記録し、その分析を行う。

5 検討期間

x年4月～6月

結 果

実際に授業を行った7回について、授業前に用意した遊具や支援、授業中の子どもの様子、授業後の反省点および改良すべき点を表1から表7に示した。

考 察

1 単元構成

本単元においては、同じ遊びの繰り返しは遊びへの主体的な取り組みを促すと考え、「新聞紙プールで遊ぼう」をテーマに2週間継続して遊ぶような展開とした。また、本単元の継続期間は、ほぼ毎日一定して2時間目に生活単元学習の時間を設けたり、授業中以外の時間も遊ぶことができるように遊具を常設したり、朝の会や帰りの会でも新聞紙プールのことを話題にしたりして、本単元を中心に、一定の学校生活を繰り返し送ることができるように心がけた。このことで、単元当初は新しい遊び場に戸惑いを見せたり、教師の促しがないと新しい遊具に挑戦できなかつたりする子どもたちも、遊びを繰り返すうちに、自分の気に入った遊具や遊び方に自ら進んで取り組む姿が見られるようになった。

さらに、今まで取り組んできた遊びが更に盛り上がりのあるものとなるよう、単元の終盤に通常の学級の仲間を招待して一緒に遊ぶようにした。実際の活動においても、Mちゃんハウスで養護学級の子どもが通常の学級の仲間と一緒にままごとをしたり、通常の学級の子どもたち自身も授業のおわりには遊び足りなかつたりする様子が見られるほど楽しむことができたようだった。しかし、遊戯室の広さに対して人数が多すぎて危険な場面があったり、新聞紙プールに入りたくてもいっぱいに入れなかつたりするなど養護学級の子どもにとってはいつものようには遊ぶことができない場面もあった。養護学級の子どもも通常の学級の子どもも両方が思う存分楽しめる単元構成の必要性を感じた。

2 遊具・場の配置

日々の生活、特にこれまでの遊戯室での遊び

の様子から、子どもたち一人ひとりの「好きなこと」「やりたいこと」「できること」に目をむけ、個々の子どもにどんな活動を用意し、どのように取り組んでもらうか、この子にはこんな活動をこのように用意すればこんなふう遊んでくれるのではないかと、子どもたちの具体的な様子を予想し、一人ひとりが思う存分遊べることを願って、遊具を作成し配置した。また、単元を展開する中で、子どもたちの遊ぶ様子を見取って、より楽しく遊べるように遊具を取り除いたり修正したり、新たな遊具を作ったりすることも繰り返した。こうした営みは、小出進(1992)のいう「なじみ性と新奇性を共存させることで遊びが活性化すること」を意図したものであった。

そして更に、みんなで同じテーマに沿って大いに遊ぶ姿を期待し、仲間の様子がいつも見えることで仲間に自分から関わろうとしたり、仲間のまねをして自分でもやってみたりできるように、教室のどこにいても全体が見渡せるような配置を心がけた。また、単元が開始されると、新聞紙プールはどの子どもも大好きで、比較的仲間と関わって遊びやすい遊具であることがわかった。よって、この新聞紙プールでの遊びが単元の核として、仲間との関わりの面でより広がることを期待して単元開始3日目から大きくし、新聞紙片も補充し、新聞紙プールを中心に他の遊具をその周りに設置することで、いつでも新聞紙プールに入って来ることができるような配置にした。このことは、単に子どもたちが個々に遊ぶだけではなく、みんなで共通のテーマを持ち、共に活動し、満足感・成就感を分かち合うことができる状況づくりを考慮した結果である。このように一人ひとりの子どもに対して個別な支援を行うと共に、集団化への支援を同時に行うことで、単元が進むに連れて、一人ひとりが気に入った遊びに取り組みつつも、新聞紙プールではお互いに新聞紙片をかけ合って遊ぶなど、仲間を意識して共に遊ぶことができるようになったと思われる。このような姿から、子どもたち一人ひとりの「好きなこと」「できること」を捉え、どの子どもも精一杯遊ぶことができ、さらに仲間や教師と共に楽しむ

表1 第1日目：6月11日（火）の概要

遊具および主な支援	子どもの様子	反省点および改良点
<p>遊具：（図1参照）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞紙プール① ・高い滑り台② ・低い滑り台③ ・Mちゃんハウス④ ・二本橋⑤ ・トンネル⑥ ・ビール箱⑦ <p>主な支援：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが興味を持てるように、これまで子どもたちが遊んできた遊具に加え、新聞紙プールやMちゃんハウス、トンネルを追加し、教師も進んで遊ぶようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体：各自思い思いの遊具で遊んだのち、教師の呼びかけで、新しい遊具でも遊んだ。特に新聞紙プールでは全員が楽しんで遊んだ。 ・J男：新聞紙プールで教師からかけられたり、自分で新聞紙片を降らしたりして楽しんだ。また、向かい合った高低の滑り台の一方から滑り降り、その勢いでもう一方へ駆け上がることを繰り返した。二本橋では渡ったり、手や足を使ってぶら下がったりして遊んだ。 ・I男：新聞紙プールで教師やY男と新聞紙片をかけあったり、新聞紙片を自分の頭の上から降らしたりして楽しんだ。教師の呼びかけでトンネルでも遊んだ。「一緒にすべる」と教師を誘って一緒に低い滑り台を滑った。 ・M子：Mちゃんハウスで教師やY男とままごとをした。（授業中に新聞紙プールで遊ぶ姿は見られなかったが、授業が終わった後に自分から教師に新聞紙片をかけて楽しむ姿が見られた。） ・Y男：新聞紙プールで教師やI男と新聞紙片をかけあったり、新聞紙片を足でかき上げたりして遊んだ。トンネルも気に入って何度も入った。MちゃんハウスではM子と教師とままごとをして楽しんだ。 ・K男：主に教師や仲間の様子を気にしながら二本橋を行ったり来たりすることを繰り返した。向かい合った高低の滑り台の一方から駆け下り、その勢いでもう一方へ駆け上がることも楽しんだ。また、教師の呼びかけで新聞紙プールやトンネルでも遊んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新しく登場した新聞紙プール、Mちゃんハウス、トンネルにどの子も興味を示し、自らまたは教師の呼びかけをきっかけに遊ぶことができた。 ・二本橋からは新聞紙プールの様子が見えにくく、また高すぎてJ男、K男以外の子が遊べないため、2人きりの遊びになりがちだった。そこで、新聞紙プールの様子が見やすい位置に設置しなおし、高いところが苦手な子も一緒に遊べるように低くする。 ・高い滑り台が怖いI男やM子、Y男は、新聞紙プールをはさんで向かい合った低い滑り台を行ったり来たりすることができなかった。そこで、高低の滑り台を並べ、それと向かい合わせて低い滑り台に代わるものを設置し、高いところが苦手な子も同じように新聞紙プールを挟んで一方から一方へ駆け上ったり下りたりできるようにする。

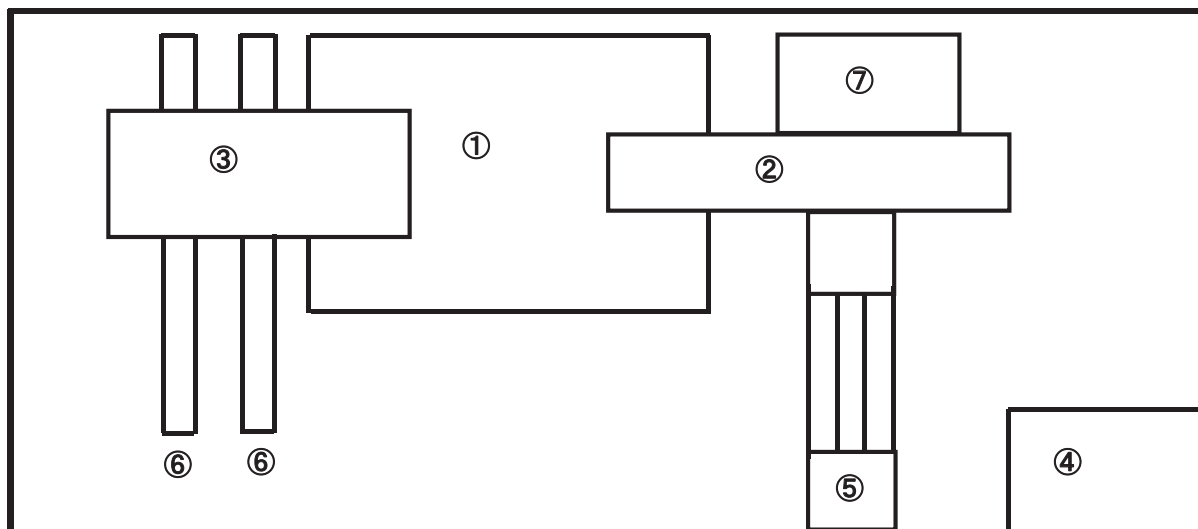


図1 第1日目：6月11日（火）の遊具設置状況

表2 第2日目：6月12日(水)の概要

遊具および主な支援	子どもの様子	反省点および改良点
<p>遊具：(図2参照)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞紙プール① ・高い滑り台② ・低い滑り台③ ・Mちゃんハウス④ ・二本橋⑤ ・トンネル⑥ ・マットの山⑧ ・平均台⑨ <p>主な支援：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちがどこにいても全体が見えるように遊具を設置した。 ・J男, K男以外の子ども二本橋で遊べるように低くした。 ・高い所が好きな子ども苦手な子どもも一方から一方へ駆け下りたり駆け上ったりできるように、高低の滑り台と向かい合わせてマットの山(ビール箱を使用)を設置した。 ・楽しい雰囲気を作り上げるため、子どもたちの好きな音楽をBGMとしてかけるようにした。 ・暑くなる時期であることや、Y男の水分補給も考えて、Mちゃんハウスに冷蔵庫を用意した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体：高い所が好きな子どもにも苦手な子どもにも新しく登場したマットの山と高低の滑り台の上り下りを繰り返す姿がたくさん見られた。昨日遊んだ新聞紙プールや初登場のマットの山など、自分の気に入った遊具で自分から遊び始めることができた。賑やかな音楽を切り、教師の「乾杯するよ」の声でMちゃんハウスに集まってお茶を飲んだ。 ・J男：向かい合った低い滑り台とマットの山を一方から一方へ駆け下りたり駆け上ったりを繰り返した。新聞紙プールではじっと寝転がって教師やI男に新聞紙片をかけられるのを待ち、タイミングよく起き上がった。教師に呼びかけられたり、様子を見て自分から仲間や教師に新聞紙片をかけたりする姿も見られるようになった。 ・I男：新聞紙プールを挟んで低い滑り台やマットの山を上り下りしたが、主には新聞紙プールで教師と一緒に仲間に新聞紙片をかけて遊んだ。仲間が新聞紙で隠れると「見えなくなったね」、出てくると「出た!」と声をあげて喜んだ。大好きなK男を探してK男に新聞紙片をかけることにもあった。 ・M子：新聞紙プールを挟んで低い滑り台やマットの山を上ったり下りたりした。低い滑り台の上から新聞紙プールにいる教師とおもちゃを「いくよー」と掛け声を上げて投げあった。Mちゃんハウスのドアを「とんとん」といいながら叩いたり、「行ってきます」と言って出入りしたりした。 ・Y男…欠席。 ・K男…高い滑り台とマットの山を一方から一方へ駆け上ったり下りたりした。新聞紙プールでは教師やI男に新聞紙片をかけられて嬉しそうに逃げた。主には教師や仲間の様子を気にしながら二本橋を行ったり来たりすることを繰り返した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞紙プールを中心にどこにいても全体の様子が見えるように配置したことで、仲間の様子を見て関わっていき、寝転がった仲間に新聞紙片をかけたりするなど新しい遊び方が生まれた。しかし、Mちゃんハウスで遊んでいる子どもは全体が見渡せないの、Mちゃんハウスにいても外の様子が見えるようにする。 ・高低の滑り台と向かい合ったマットの山を一方から一方へ駆け下りたり駆け上ったりを楽しむ姿が見られた。 ・二本橋は低くしても、J男, K男以外の子どもは遊ばなかった。高さよりもバランスをとる遊びであることのほうが大きな要素と思われるので、J男, K男が十分に満足できるように第1日目の高さに戻す。 ・新聞紙プールでどの子どもも楽しく遊ぶ姿が見られ、新聞紙片をかけ合うなど仲間との関わりも持ちやすいようである。よりいっそう仲間と関わって遊ぶことができるように、新聞紙プールを大きくする。

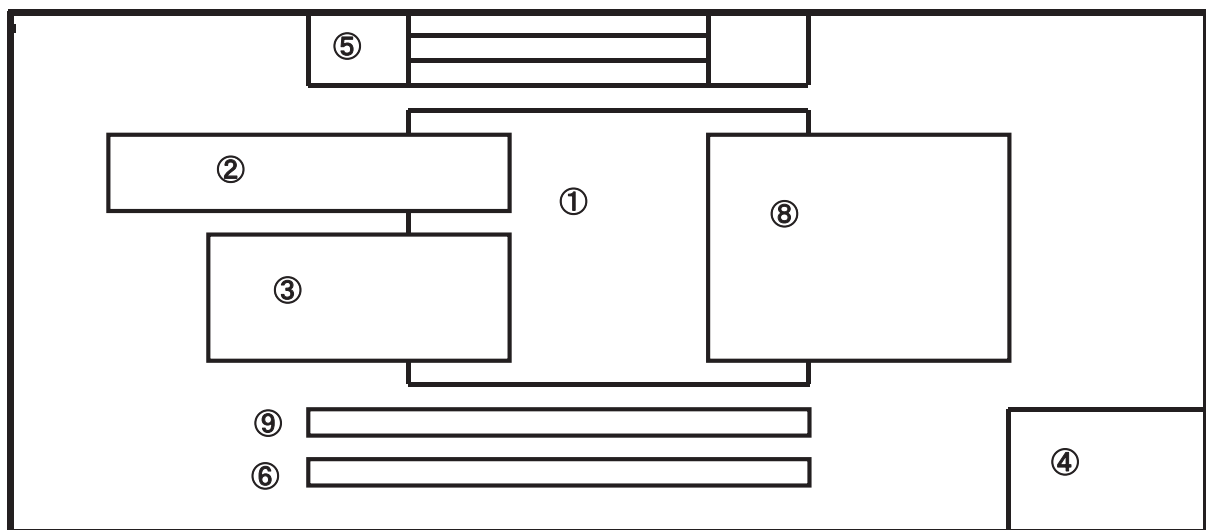


図2 第2日目：6月12日(水)の遊具設置状況

表3 第3日目：6月13日（木）の概要

遊具および主な支援	子どもの様子	反省点および改良点
<p>遊具：（図3参照）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞紙プール（拡大版）①' ・高い滑り台② ・低い滑り台③ ・Mちゃんハウス④ ・二本橋⑤ ・トンネル⑥ ・マットの山⑧ ・平均台⑨ <p>主な支援：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞紙プールで仲間と関わりながらより活発な遊びができるように、新聞紙プールを大きくし、新聞紙片を補充した。 ・J男、K男が高さを楽しむように、二本橋を高くした。 ・Mちゃんハウスで遊ぶ子どもも外の様子が見え、外で遊ぶ子どもとかわりをもちやすいように、Mちゃんハウスの壁に窓をつけた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体…教師の声かけでI男やM子を中心に全員が新聞紙プールに集まり、プールに寝転がった仲間に新聞紙片をかけるなど仲間と関わりながら遊んだ。 ・J男…新聞紙プールに自分から寝転がって教師やI男、M子に新聞紙片をかけられるのを待ったり、教師やM子に新聞紙片をかけたりした。仲間が新聞紙片の中から出てくると嬉しそうに笑ったり、教師が「助けて」と言う手を引っ張っておこしてあげたりした。二本橋では遊ばなかった。 ・I男…新聞紙プールに入ってくる仲間を見つけると「次はY男君だ」などと言って自分から教師と一緒に仲間に新聞紙片をかけに行った。高い滑り台も上り下りできるようになり、新聞紙片を持って滑り台にのぼり、新聞紙を滑らせたりもした。マットの山では、寝転がって滑り下りることを楽しんだ。 ・M子…新聞紙プールに自分から寝転がって教師やJ男、I男に新聞紙片をかけられるのを待ったり、教師やJ男に「がまん！」と言いながら新聞紙片をかけたり「Y男君かける?」「寝て!」などと大好きなY男にも新聞紙片をかけたがった。Mちゃんハウスから「先生おいでー」と教師を呼び、教師やY男とままごとをした。 ・Y男…マットの山の上から新聞紙プールを眺めていたが、近くにある新聞紙片を蹴ったりばら撒いたりした。新聞紙片を顔にかけられるのは嫌だったが、新聞紙プールではM子の顔にかかった新聞紙片をどけてあげるなどして仲間と関わって遊んだ。教師やM子とMちゃんハウスでままごとをした。 ・K男…欠席。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大きくなった新聞紙プールでまとまって遊ぶことができ、仲間を新聞紙片で隠してしまうなど遊び方が広がってきたことで、仲間の名前を呼ぶなど仲間を意識した姿がたくさん見られるようになった。 ・Mちゃんハウスに窓をつけたこと中や外の様子がよく見え、Mちゃんハウスでよく遊ぶM子やY男が声をかけるなど、外で遊んでいる仲間や教師を気にかけることができるようになった。また中の様子を見て教師もM子やY男に声をかけやすくなった。

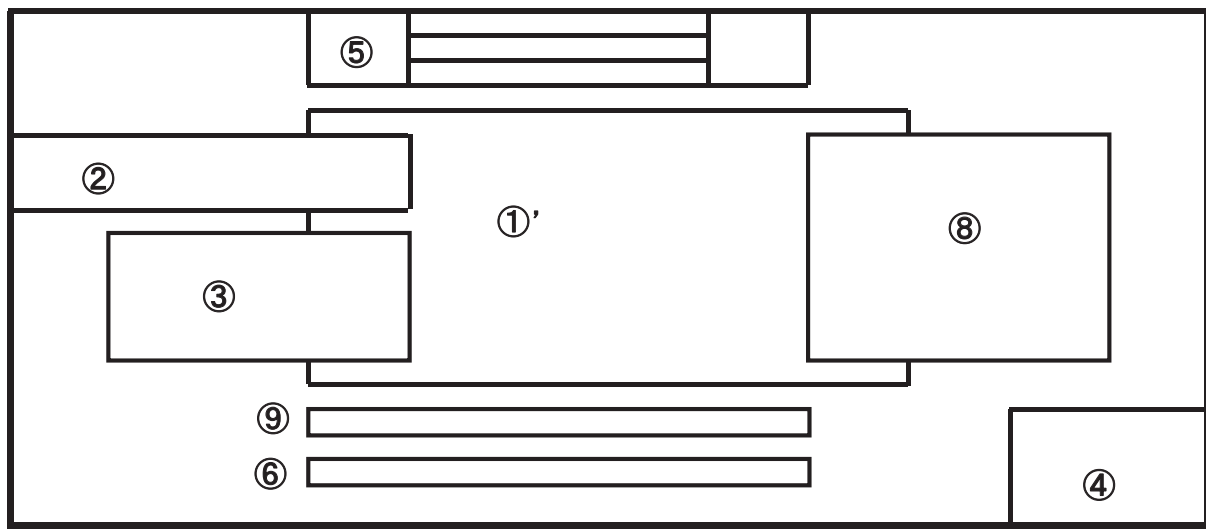


図3 第3日目：6月13日（木）の遊具設置状況

表4 第4日目：6月14日（金）の概要

遊具および主な支援	子どもの様子	反省点および改良点
<p>遊具：（図4参照）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞紙プール（拡大版）①' ・高い滑り台② ・低い滑り台③ ・Mちゃんハウス④ ・二本橋⑤ ・トンネル⑥ ・マットの山⑧ ・平均台⑨。 <p>主な支援：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが新聞紙プールで新聞紙片をたくさん降らせたり、仲間の体全体が隠れるまで新聞紙片をかけたりできるように、新聞紙片を補充した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体…昨日と同様に新聞紙プールを中心に新聞紙片をかけあって遊んだ。新聞紙プール以外にもそれぞれの気に入った遊びを思い思いにする姿が見られた。 ・J男…高低の滑り台を駆け下りたり駆け上ったりすることを繰り返した。Mちゃんハウスからままごとの道具を持ち出して、マットの山の上で寝転がっていた。新聞紙プールを吊しているゴムが気になって教師にゴムをほどくように要求した。 ・I男…高い滑り台にいたK男に新聞紙をかけに行ったり、教師から新聞紙片をかけられそうになると喜んで逃げたりした。「ころころすべろ」などとY男を誘ってマットの山から何度も寝転んで滑った。 ・M子…新聞紙プールを挟んで、低い滑り台とマットの山を行き来した。教師やY男とMちゃんハウスでままごとをした。 ・Y男…マットの山や低い滑り台の上、新聞紙プールの中に座って仲間の様子を眺め、二本橋や高い滑り台にいるK男の後をついて廻ろうとした。教師やM子とMちゃんハウスでままごとをして楽しんだ。 ・K男…仲間や教師の様子を眺めながら、二本橋を行き来したり高い滑り台に上ったりしていたが、新聞紙プールに来ると教師やI男に新聞紙片をかけられたり、くすぐられたりして喜んだ。自分から仲間に新聞紙片をかける姿も見られるようになった。マットの山から寝転んで滑ることもした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞紙プールで仲間と関わって遊ぶ一方で、一人ひとりが自分の気にいった遊具や遊び方を思い思いに楽しむことができた。 ・トンネルで遊ぶ姿はほとんど見られなかったので、遊戯室をより広く使えるように撤去する。 ・J男がゴムのことを気にして遊びに集中できない場面があったので、引っ張ってもいいゴムを用意する。

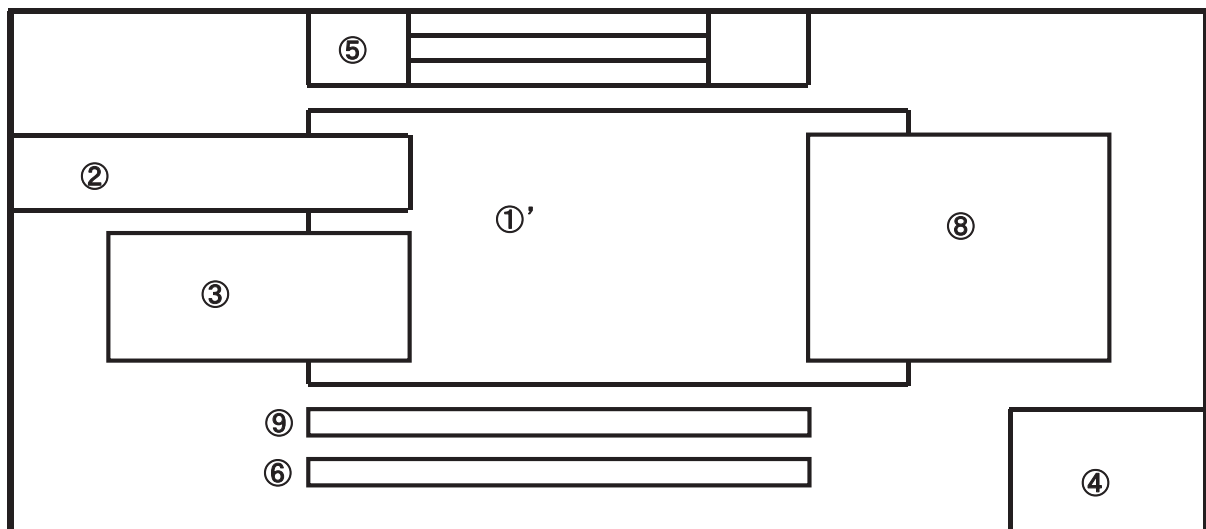


図4 第4日目：6月14日（金）の遊具設置状況

表 5 第 5 日目：6 月 15 日（土）の概要

遊具および主な支援	子どもの様子	反省点および改良点
<p>遊具：（図 5 参照）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞紙プール（拡大版）①' ・高い滑り台② ・低い滑り台③ ・Mちゃんハウス④ ・二本橋⑤ ・マットの山⑥ ・平均台⑨ ・膨らむ怪獣⑩ <p>主な支援：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの遊びが広がり、より活発になるように、膨らむ怪獣を導入した。また子どもたちが怪獣に興味を持てるように、怪獣が膨らんだらウルトラマンのテーマソングをかけるようにした。 ・子どもたちが新聞紙プールに新鮮さを感じ、より活発な遊びができるように、裁断機で切った新聞紙片だけでなく、シュレッダーを使って切った新聞紙片を補充した。裁断機で切ったものは正方形のような形をしており、子どもたちは新聞紙片をかき上げるなどして紙ふぶきのようにひらひら落ちてくるのを楽しんでいた。シュレッダーで切ったものは細長くかたまりになるので、そのかたまりを裂いたり、ふわふわした感触を楽しめたりするのではないかと考えた。 ・子どもたちが教室をより広く使えるように、子どもたちがあまり遊ばないトンネルを撤去した。 ・J男が引っ張ってもいいように、ゴムを天井から吊るした。 ・子どもたちが滑り台から新聞紙プールに向かって何度も繰り返して滑ることができるように、新聞紙プールの下にマットを敷いた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体…今まではなかったシュレッダーで切った新聞紙片を頭から降らせたりしてその感触をいつもより一層楽しんでいるようだった。膨らむ怪獣に対しては、興味を持ちながらも初め戸惑いが見られたが、次第に自ら触ってみたりポーズをとってやっつけようとしたりするなど慣れつつあるようだった。 ・J男…新聞紙プールでは寝転んだり、教師やI男、M子に新聞紙片をかけられたりしてその感触を楽しんだ。怪獣には触ったり、頭に乗せてもらったりしてその感触を楽しんだ。また、吊るされたゴムを持ちながら滑り台を上り下りした。 ・I男…新聞紙プールでは新聞紙片をJ男にかけたり、教師にかけられたりして遊んだ。怪獣には触ったり、頭に乗せてもらったりしてその感触を楽しんだ。マットの山や低い滑り台の上にいるY男を新聞紙プールに誘った。 ・M子…新聞紙プールではJ男にかけたり、ばら撒いたりして遊んだ。初めは「こわい！」と怖がったが、低い滑り台の上からポーズをとったり、新聞紙片を投げて怪獣をやっつけようとしたりした。 ・Y男…マットの山や低い滑り台の上に座って新聞紙プールの様子を眺めていたが、新聞紙片を渡されると蹴ったり投げたりした。怪獣にはポーズをとって殴ったり蹴ったりした。 ・K男…新聞紙プールの様子を眺めながら二本橋を歩き来した。怪獣に対しては、二本橋から眺めていたが、教師が誘うと近くにきて上に乗った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・膨らむ怪獣によって、新聞紙プールを中心にした遊びに新たな展開が見られた。 ・本時への期待が膨らむように、Mちゃんハウスに前時の写真を用意していたが、授業の前に教室で見ていたので、遊戯室に入るとMちゃんハウスに集まらずにすぐに遊ぶように促した。 ・乾杯をした後も遊びたい様子だったので満足するまで遊ぶようにした。

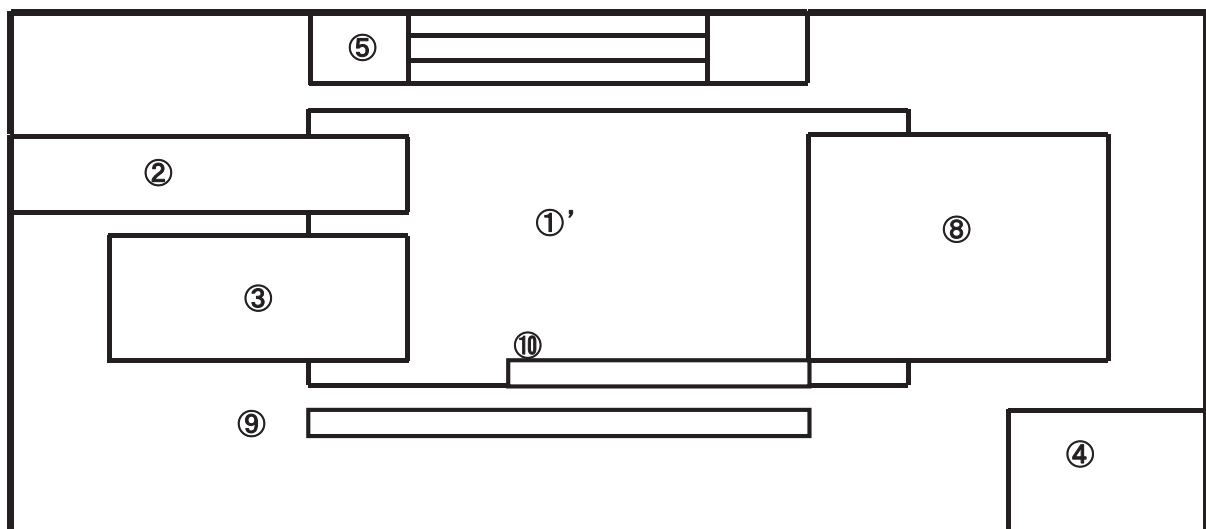


図 5 第 5 日目：6 月 15 日（土）の遊具設置状況

表6 第6日目：6月18日（火）の概要

遊具および主な支援	子どもの様子	反省点および改良点
<p>遊具：(図6参照)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞紙プール(拡大版)①' ・高い滑り台② ・低い滑り台③ ・Mちゃんハウス④ ・二本橋⑤ ・トンネル⑥ ・マットの山⑧ ・平均台⑨ <p>主な支援：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たくさんの仲間と一緒に遊ぶことで子どもたちの遊びがより広がるように、1年2組の仲間を招待して一緒に遊んだ。 ・人数が多くなってもみんながそれぞれに遊べるように、トンネルをもう一度設置した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体…40人もの仲間が遊びに来てくれて驚き、新聞紙プールに入ろうとしないなど戸惑って、いつものようには遊べなかった子もいたが、M子やY男など1年2組の仲間と楽しく遊ぶ姿も見られた。 ・J男…二本橋や高い滑り台に上って新聞紙プールを眺めていたが、中には入ろうとしなかった。 ・I男…教師と一緒に新聞紙プールやマットの山の上に座ってみんなの様子を眺めていた。 ・M子…Mちゃんハウスで1年2組の仲間とままごとをした。 ・Y男…マットの山の上から新聞紙プールの様子を眺めていたが、しばらくすると入って1年2組の仲間に新聞紙片をかけた。 ・K男…二本橋や高い滑り台に上って新聞紙プールを眺めていたが、中に入ろうとはしなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大勢の仲間がいて戸惑った子ども、遊びの場から離れることはなく、特にM子やY男は1年2組の仲間と一緒に楽しく遊ぶことができた。 ・あまりにも人数が多く、存分に遊ぶことはできなかった。また、危険もあったので、通常の学級の仲間との遊び方を考える必要がある。

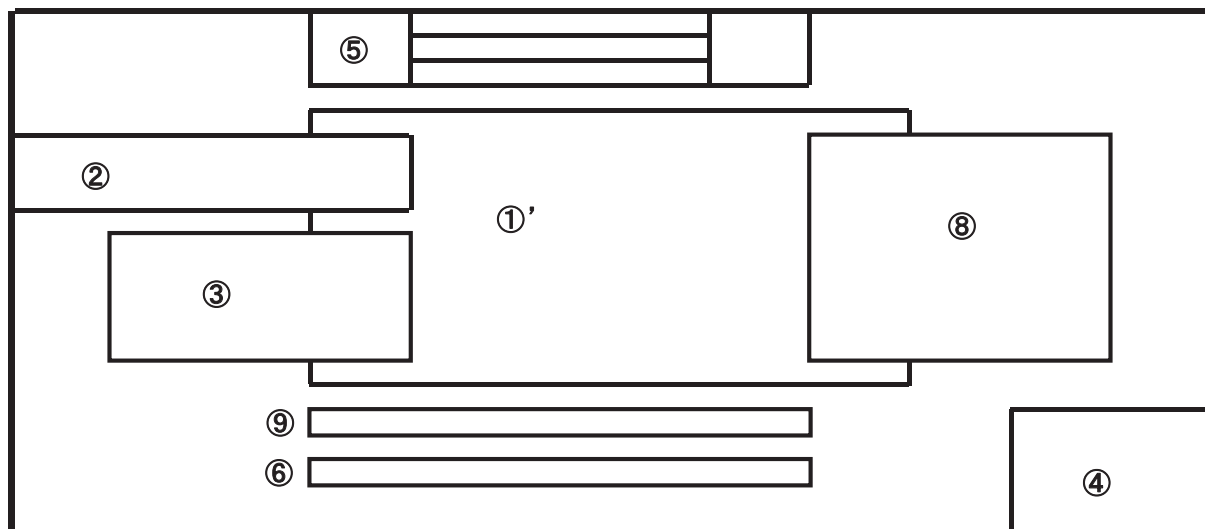


図6 第6日目：6月18日（火）の遊具設置状況

表7 第7日目：6月20日（木）の概要

遊具および主な支援	子どもの様子	反省点および改良点
<p>遊具：（図7参照）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞紙プール（拡大版）①' ・高い滑り台② ・低い滑り台③ ・Mちゃんハウス④ ・二本橋⑤ ・トンネル⑥ ・マットの山⑧ ・平均台⑨ ・膨らむ怪獣⑩ <p>主な支援：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・膨らむ怪獣でさらに活発な遊びができるように、怪獣で遊ぶ時間を長くした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体…膨らむ怪獣を楽しみにし、上に乗ったり、蹴ったりするなど色々な楽しみ方をする姿が見られた。 ・J男…新聞紙の下の膨らむ怪獣を見つけると、教師に早く膨らますように要求した。怪獣が膨らむと、下に寝転がって蹴ったり手で押し上げたり、上に乗ったりした。膨らむ怪獣から出てくる空気を顔に当てて遊んだ。 ・I男…教師に膨らむ怪獣の上に乗せてもらって喜んだ。高い滑り台やマットの山の上から新聞紙片を降らせた。 ・M子…膨らむ怪獣は「こわい！」と怖がってあまり近づかなかった。Mちゃんハウスで教師とままごとをした。最後の乾杯の時には、「みんなのコップ準備してくれる？」と頼むと「うん！」と言って名前を確認しながらみんなのコップを用意してくれた。 ・Y男…膨らむ怪獣に対してポーズをとったり、蹴ったり、殴ったり、新聞紙片をかけたりした。 ・K男…膨らむ怪獣が登場するとしばらく見ていたが、叩いたり、上に飛び乗ったりした。Mちゃんハウスでの導入の時に「何して遊ぶ？」の問いに「平均台！」と元気よく答える姿が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・膨らむ怪獣に慣れ、自分の遊び方で楽しむことができた子もいたが、怖がって遊べない子もいた。

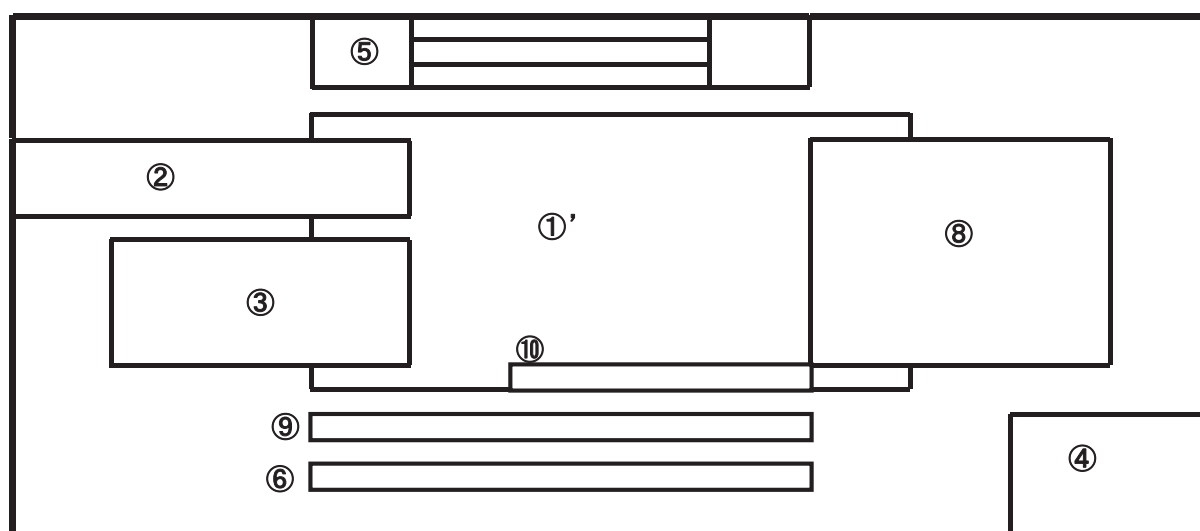


図7 第7日目：6月20日（木）の遊具設置状況

ことができる状況づくりをしていくことが大切であると考えます。

3 教師の支援

教師自らが子どもとともに遊ぶことに徹し、共に楽しむようにすることで、子どもたちが「楽しそう」「やってみたい」と存分に遊ぶ場を作ることができた。また、子どもと教師の関わりが子どもと子どもの仲間どうしの関わりに広がるように、「○○ちゃんはおままごとで遊んでるね」と仲間の様子を伝えたり、「○○ちゃんに新聞紙をかけよう」と教師が媒体となることで、複数の子どもの遊びを展開することができた。こうした教師の支援のあり方を、小出進(1992)は「子どもとの共感関係の中での声かけ・手助けであってこそ価値があり、効果が大きい」としている。今回の授業づくりにおいても、学校における遊び活動であるからといって、運動機能を高めるため、社会性を身につけるために遊ぶといったような手段としての遊びではなく、それ自体のために行い、それ自体を楽しむ自発的な活動としての遊びを大切にしたい。教師は遊びを通して領域や教科の内容を指導するのではなく、子どもがよりよく遊ぶことを願い、意図して、遊び自体を支援するように心がけた。教師が子どもと共に遊び、その中で子どもたちがよりよく遊べるようにさりげない支援をする営みが、一人で遊んでいた子どもが、楽しそうに遊ぶ教師を遊びに誘ったり、仲間と一緒に遊んだりすることや、新しい遊びに自発的に取り組むことにつながったと思われる。今後も遊びを手段として指導し、子どもの自発的な遊びを抑えたり、遊ぶ楽しさを奪ったりすることのないように、子どもと共に遊び、子どもの気持ちを感じ取りながら適切な支援となるように心がけていきたい。

付記

子どもたちの取り組みの様子や写真などの掲載については保護者の方々の了解を得た。

文献

- 木下勝世(2000)「遊びの指導」, こう考えて. 発達
の遅れと教育, 513. 4-7.
- 小出 進(1989) 実践 どの学級でもできる新生活
単元学習. 学習研究社.
- 小出 進(1992)実践 遊びの指導—よりよく遊べる
状況づくりへの挑戦. 学習研究社.
- 宮崎直男(1987) 障害児教育の新展開1 生活単元
と遊びの授業づくり. 明治図書.
- 文部省(1983) 特殊教育諸学校学習指導要領解説—
養護学校(精神薄弱教育)編一. 東洋館.
- 文部省(1991) 特殊教育諸学校小学部・中学部学習
指導要領解説—養護学校(精神薄弱教育)編一. 東
洋館.
- 文部省(1993) 遊びの指導の手引き. 慶應通信.
- 名古屋恒彦(2002) 子どもがより良く遊ぶというこ
とは. 子ども主体, 生活中心教育研究準備号. 25-
28.
- 太田俊己(1994) 遊びの指導の意義. 精神薄弱教育
実践講座刊行会(編)精神薄弱教育実践講座, 5, 遊
びの指導. ニチブン. 13-22.
- 柚木 馥(2000) 遊びと働く力. 発達の遅れと教育,
513. 21.